

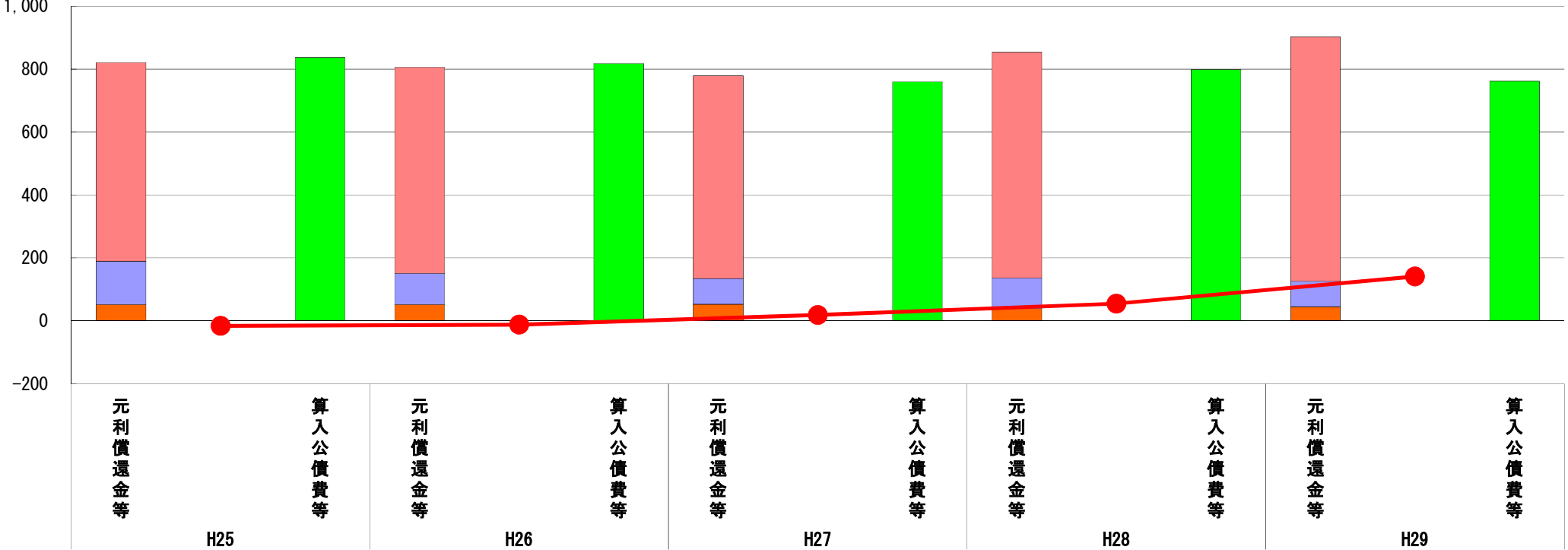
# (9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成29年度

長野県下諏訪町

(百万円)

1,000



(百万円)

分子の構造		年度	H25	H26	H27	H28	H29
元利償還金等 (A)	元利償還金		631	655	644	717	777
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		138	99	82	98	81
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		52	52	53	39	45
	債務負担行為に基づく支出額		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	一時借入金の利子		0	0	-	0	0
	算入公債費等		837	818	760	799	762
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		▲ 16	▲ 12	19	55	141

## 分析欄

実質公債費の分子は、ここ数年一般会計及び公営企業会計において元利償還金が年々減ってきていることから、減少傾向にあったが平成29年度においては、対前年度比84,759千円増の140,786千円となった。要因としては、一般会計の元利償還金については、近年実施してきた大型の投資的事業の借入金の償還が本格的に始まったことから前年度比59,620千円増の776,835千円となったこと、また、公債費から差し引く控除財源である算入公債費等 (B) にあたる事業費補正算入公債費において、交付税措置終了などにより前年度比47,183千円の減となったことが影響している。次年度以降も当分の間は公債費や一部事務組合への地方債充当繰入金が増える見込みであるので引き続き注視の

※平成30年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。